

チェルノブイリ通信

<http://www.cher9.to/tusin.html>

NPO法人
チェルノブイリ医療支援ネットワーク
〒811-3102 福岡県古賀市駅東2-6-26-203
TEL/FAX: 092-944-3841
E-mail: jimu@cher9.to



チェルノブイリ医療支援ネットワーク(CMN)は、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、現地から求められる医療支援を行います。この活動を通して、日本とベラルーシの人びとの心と心のつながりを深めます。

No.

105

渡曾泰彦先生講演会レポート

CONTENTS

ベラルーシ共和国における甲状腺癌検診のあゆみ ～10年をふり返る～ / つなぐずカタログにて「のぞみ21」商品を紹介！ / 支援者のお名前とメッセージ / 事務局からのおしらせ / 編集後記



冬を迎えたベラルーシ。未来へ向けて寄り添い、歩む

あなたもチェルノブイリを支える一人になっていただけませんか？
ご寄付を受け付けています。

郵便振替口座 01770-1-65328
楽天銀行 ジャス支店(支店番号201) (普) 7017104
住信SBIネット銀行 法人第一支店(支店番号106) (普) 1030416



本紙はCMNの活動を支援してくださっている皆さまへお届けしています。また団体ウェブサイトでもPDFファイルにてご覧いただけます。送付がご不要な場合は事務局までご連絡ください。

渡會泰彦先生講演会

ベラルーシ共和国における甲状腺癌検診のあゆみ
～10年をふり返る～



2016年11月19日（土）に日本医科大学付属病院・病理部技師長の渡會泰彦先生をお招きし、講演会を開催しました。第1部は渡會泰彦先生による基調講演、第2部はロシア語医療通訳・コーディネーターとしてチェルノブイリ支援に携わってこられた山田英雄さん、CMN理事の河上、平川を交えてのトークセッションというプログラムで、これまでの活動をふり返り、今後の活動のあり方について考えました。

●第1部：渡會泰彦先生 基調講演



臨床検査技師として活動に参加

私は2003年から臨床検査技師としてCMNの甲状腺癌検診に参加しています。臨床検査技師の仕事は尿検査や血液検査、心電図や超音波などの生理機能検査、細胞や組織を扱う病理学検査などがあります。この病理学検査の中に私がベラルーシで行っている細胞診が含まれます。

2003年、今は本学を退官された

清水一雄先生が昼休みにいきなり

私のところへ来られ、「ベラルーシに行ってくれないか」と頼まれました。それまで私は海外旅行すらしたことがなかったので固辞していましたが、毎回の昼休みの攻撃で落ちてしまいました。それから13年たち、様々な人と触れ合えて楽しいときも、体力的にきついときもありましたが、なんとかやってくる事ができたというお話をさせていただきます。

これまでの支援活動はどうだったのか、大成功といえると思います。理由は3つあります。1つ目の理由は各分野の専門家が検診に参加していることです。医療通訳、外科医、内科医、そして臨床検査技師など。2つ目はCMNが医療を中心とした支援にシフトし、まっすぐ医療に取り組む体制がとれていたことです。3つ目はベラルーシ赤十字が全面的

に協力してくれたことです。税関が通らないといったトラブルも、赤十字のおかげで何とかすることができました。2003年頃はがむしゃらにやってきましたが、当時のメンバーに未来につなげたいという思いがあり、それがつながったことで支援を成功させることができたと思います。

今年にはチェルノブイリ原発事故から30年目ということで、ベラルーシ共和国のゴメリ州で国際会議が開催されました。このとき清水先生が講演されましたが、驚くくらいの拍手が沸き起こり、私達の活動が現地で認められていることを肌で感じる事ができました。

サル型とカニ型の支援の形

今日の講演では支援の形を「さるかに合戦」にたとえて、サル型とカニ型に分けて説明させていただきます。「さるかに合戦」ではサルの柿の種とカニのおにぎりを交換します。サルはおにぎりを食べて満足しますが、明日にはまたお腹がすいてしまいます。これも支援のひとつです。一方カニは種をまいて、水をやって実を实らせませす。こちらを継続的な支援にたとえてみました。

その前にまず放射線被曝について簡単にご説明します。放射線の被

曝には、外部被曝と内部被曝があります。外部被曝は外からの強い放射線によって全身臓器が被曝してしまうことです。内部被曝というのは呼吸などから放射性物質が体内に入り、臓器にまで達することです。放

射線と臓器が近く、長期的に当たるので、癌化する可能性が高まります。この内部被曝のほうが原発事故では問題になってくると思います。

チェルノブイリ原発事故では甲状腺癌は10年は出ないだろうといわれていましたが、4年半～5年目ごろから増え始め、小児甲状腺癌は4000名発生しました。原発に近いところよりもむしろ遠いベラルーシのほうが患者数は多く、事故前後の10年で比較すると成人は2.97倍、小児は72.6倍に甲状腺癌患者が増加しました。

1997年にスタートしたCMNの検診は3段階の目標があります。第1段階は一人でも多くの甲状腺癌患者を発見すること。第2段階は現地の医師による検診を実現すること。そして第3段階は患者に優しい、傷の少ない手術を行うことです。第1段階はサル型、これも重要なことです。



プレスト州内の各地を回り、一次スクリーニングが行われる

が、支援が終わったら終わりになってしまいます。そこでカニ型の支援である第2段階へ移っていきます。

まず第1段階の甲状腺癌患者の発見をどのように行ってきたのか、これはプレスト州立内分泌診療所の医師たちが大きな役割を務めました。まず彼ら現地のスタッフが国際赤十字の移動検診チームとして色々な地域を回りながらエコー検査などをして、異常がありそうな人を絞り込みます。そして私達の訪問にあわせて患者さんに診療所へ来ていただいて検診を行います。問診、触診、エコー検査をして、必要であれば細胞診を行うという流れとその技術を伝えてきました。

現地医師らの技術のすごさは検体の不適正の数にも表れています(次頁上図)。不適正というのは細胞を採ろうと針を甲状腺に刺したけれども、採れなかった数です。最初の頃

| ベラルーシ甲状腺癌検診 10年の結果 | | | | | | | | | | | |
|--------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|
| 年 | 2003 | 2004 | 2005 | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 計 |
| 不適正 | 13 | 5 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 22 |
| 正常／良性 | 48 | 14 | 21 | 35 | 29 | 33 | 20 | 40 | 25 | 21 | 286 |
| 鑑別困難 | 16 | 2 | 7 | 8 | 3 | 12 | 5 | 9 | 2 | 2 | 66 |
| 悪性／悪性疑い | 8 | 3 | 2 | 7 | 6 | 7 | 3 | 1 | 3 | 2 | 42 |
| 計 | 85 | 24 | 31 | 50 | 38 | 52 | 29 | 50 | 31 | 26 | 416 |

は85人中13例もありましたが、近年はほとんど0です。日本の医師のレベルもこれほど高くはありません。検診の結果は416人のうち悪性が42人、癌の疑いを含む鑑別困難が66人見つかりました。一番多いのは乳頭癌です。この乳頭癌は非常におとなしく、あまり死に至りません。これはベラルーシも日本も同じです。



細胞診の症例をまとめたロシア語の教本を寄贈。今後の更なる診断技術向上にむけての活用が期待される。左にある検査試薬やスライドグラス等の消耗器具は、武藤化学(株)様より無償提供していただいた品々です

サル型からカニ型の支援へ

次に第2段階のカニ型の支援に入ります。2003年に私がベラルーシへ行ったときは、現地の医師は見学者で、この年は見学だけで終わりました。しかし次の年にはもう自分達で検診をやっていて、2008年ごろには現地の医師が主役となって検診をやるようになりました。エコー検査は完璧で、細胞を採る手技も早い。このころから検体の不適正がなくなってきました。

細胞の染色方法は日本ではパパニコロウ染色が一般的ですが、経

済的な理由などからベラルーシで

はギムザ染色が行われています。限られた現地滞在期間の中でギムザ染色による診断技術を伝授するため、その第一歩として様々な方の協力を得てロシア語の教本を発刊しました。細胞診の勉強は教本を見ながら、顕微鏡を見ながらというのが基本なので、そのベースになると思います。

第3段階については、傷の少ない内視鏡による手術の技法を清水先生から学んだ現地医師らが、手作りの器具を開発し、症例を増やすまでになっています。

診断技術の更なる向上を目指して

これからの課題は細胞診の診断技術の向上です。前述の3段階の目標をどれくらい達成できたかということ、第1段階は10年かけてやってきたので、相当な人数の検診ができました。第2段階は触診、エコー検査、穿刺吸引はすぐにできました。ですが、診断のところだけはまだ不十分です。現地の滞在時間が短くて、なかなかできていません。今後はこの診断技術を伸ばせるようにしたいと思っています。第3段階に関してはすでにご説明したとおり、現地の医師たちの手で手術ができてい



限られた滞在時間の中で仮診断まで行わなければならない。根気と集中力を要する大切な仕事

左は2003年、右は2008年の検診風景(上:穿刺吸引、下:触診)。当初は日本の専門家が中心となっていたが、回を追うごとに現地医療スタッフの技術が向上し、検診の主役を担うようになっていった

るように、着実に進歩しています。

チェルノブイリから学ぶことは、甲状腺癌は早期に発見すれば治るといふこと、恐れることはないということです。もちろん癌なので進行すれば

転移しますが、非常にゆっくりですので、検診を受けていれば引っかかると思います。明るく元気に過ごすことも大切です。まだ課題はありますが、これまでの色々な縁や輪の中で支

援を成功させることができました。子ども達が元気に過ごせるように、今後とも支援を続けていきたいと思えます。

●第2部：トークセッション（進行：寺嶋悠）

▼チェルノブイリ原発事故後の様子について

山田：ベラルーシとウクライナの間に位置するポーシア地域では、事故後5年間もの間食事制限が行われませんでした。汚染されたキノコやベリー、牛乳などを食べ続けた結果、大変なことになりました。5年間放射線に対して無防備だったため、甲状腺癌が大きくなっていたり、リンパ節などに転移していたりしました。そのため、「チェルノブイリネックレス」と呼ばれる大きな傷跡が残る手術をすることになってしまいました。なおこの傷跡に関しては、当時現地には十分な子ども用の手術器具がなかったことや、手術器具自体もいいものがなかったことも理由とし



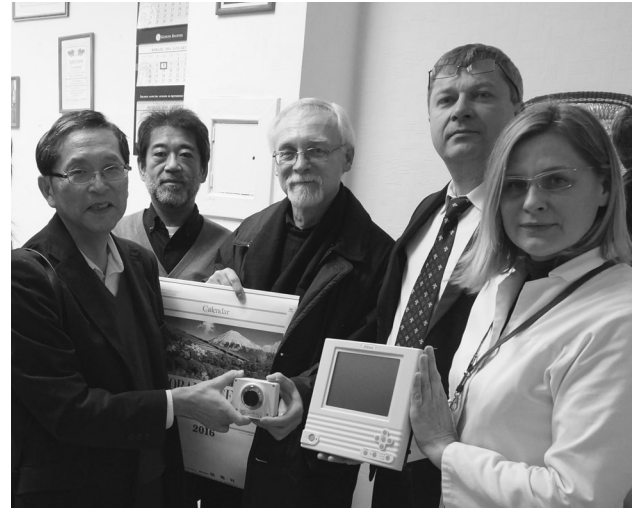
てあります。決して現地の人の技術が未熟だったわけではないです。

▼CMN活動初期の状況は？

河上：当初は何をやっているのかも分からず、手探りで支援を行っていました。様々な支援物資を送り、保養も



左)露訳した教本と、その元になったテキストを見比べながら説明を行う渡會先生



右)2016年1月のベラルーシ訪問時にプレスト州立内分泌診療所へ顕微鏡デジタルカメラシステムを寄贈することができた

行いました。しかし、保養では本当の意味で患者さんを救うことはできません。そこで活動の中心を医療支援にシフトしました。素人だけではどうしようもないので、専門家と一緒に支援活動を行う必要がありました。市民運動と専門家が一緒にやってくることでこの活動ができたと思っています。

▼今後のベラルーシでの細胞診にむけて

渡會: 今年顕微鏡の画像をモニターで見ることができ、撮影装置を贈呈しました。顕微鏡で見えている像を見せながら、こういう特徴があるから癌細胞だということを教えることができるようになると思います。そのベースになるのが以前に贈呈したロシア語の教本です。まだ不十分なところもありますが、ベラルーシの人たちの教育の広がり役立つものがそろってきたと思います。

平川: 私も臨床検査技師になるために勉強してきましたが、細胞診は検体をたくさん見ないと分かるようにならないと実感しました。同じタイプの癌でも患者さんによって細胞の様子が変わってくるので、多くの症例を見て、ディスカッションをしていく中で知識を積み上げる必要があると感じました。今回贈呈したモニターで細胞を見ながら、

現地の医師たちの中でディスカッション等を行うことができれば、さらなる知識・技術の向上に役立つのではないかと思います。

▼これまでの経験を福島にどう生かしていくか

山田: ベラルーシの専門家も非常に高い技術を持っているので、彼らと交流することは大切だと思います。また日本では5年たっても避難者の家がプレハブだという問題もあります。ベラルーシではレンガ建て・家庭菜園付きの家が避難者に用意されました。このような避難者に対する政策は日本がベラルーシから学んでいくべきではないでしょうか。検診という点では、これまで行ってきた検診が福島でそのまま生きると思います。

河上: 私は大前提として専門家との協力がないとやっていけないと思います。甲状腺の専門病院との関係性をCMNは持っています。その力を福島に生かすことができると私は考えています。専門家と医療関係者、研究者のネットワークを作れる状況にあります。これを発展させたいに次の活動はあると思っています。

渡會: 小児甲状腺癌については増えたという話も増えていないという話もあります。誰も子どもの甲状腺を調べた

ことがないため、本当に多いか少ないかも分かりません。
甲状腺癌は非常におとなしい癌なので、子どもの頃から
持っていたものがたまたま発見されただけの可能性もあ
ります。長い目で見て判断する必要があり、どちらに決め
付けるのもおかしいと思います。

▼今後の支援のあり方について

河上:昔は私達の募金でエコーを持って現地に行っ
ていましたが、今はそれにかわる形ができつつあります。エ
コーに関しては外務省の「草の根・人間の安全保障無償
資金協力」を活用し、新型のエコーを購入しました。今

年の撮影装置もニコンの協力で贈ることができました。
毎年贈っている試薬も武藤化学の協力です。また、獨協
医科大の木村先生とベラルーシに行くこともできました。
今後はこのように企業や研究者とも協力した支援を展開
していく必要もあると思います。

平川:もっと若い世代を巻き込んだ活動を行っていき
たいです。就職活動の理由作りなどでボランティアに来て
くださる人は増えてきましたが、1回、2回程度で終わってしま
います。長期的に関わりたいと思えるような魅力的な活
動にしていきたいと思います。

ACTIVITY REPORT

つながっずカタログにて「のぞみ21」商品を紹介しています！

つながっず会は、さまざまな社会課題解決のためにモノやサービス（＝
つながっず）の販売・提供を行っている福岡県内のNPO・ボランティア団
体の集まりです。CMNもつながっず会の設立当初から参加していて、参加団体で
情報交換や勉強会、展示販売会などを行っています。この度、福岡県との協働
で、つながっず会参加団体が取り扱う商品をまとめたカタログを作成しました。
ベラルーシの福祉工房「のぞみ21」で作られたマトリョーシカやリネン雑貨の他
にも、環境や福祉、地域おこしや伝統産業の継承といったさまざまな分野の魅
力的な商品が詰まった一冊です。つながっずカタログは、福岡県NPO・ボランティ
アセンター（住所：福岡市博多区吉塚本町13-50 福岡県吉塚合同庁舎5F）で配架
されています。「カタログを見たいけど博多まで行くことができない！」という
方は事務局までご連絡ください。



A5判・フルカラー印刷です



左:カタログ作成にむけ、広告デザイナーを講師に招いての勉強会を開催
右:10月末の「ふくおかできるマーケット」にて、各々の商品を手に記念撮影



たくさんのご支援を本当にありがとうございます！
チェルノブイリ被災者支援のために大切にに使わせていただきます。

お名前掲載について

20 16年8月1～10月31日までに募金をして下さった方、ならびに商品購入を通じて活動を支援して下さいました。同封の振込用紙の「氏名掲載」欄で、「可」の部分へ○印をして下さった方々をご紹介します。掲載を許可される方はぜひご記入をお願いします。

なお郵便振替以外からのお振込み等については、許可が確認できなかったものとして、掲載しておりません。募金者名の掲載をご希望の場合は、お手数ですが事務局までご連絡下さい。

マンスリーサポーター募集中！

月々 300円からの募金で気軽に、コツコツチェルノブイリ支援をはじめませんか？マンスリーサポーターになると毎月26日にご希望の金額がゆうちょ銀行総合口座から自動的にCMNへ寄付されます。「毎回振り込みに行く手間を省きたい」「無理なく継続的に支援を続けたい」という方にピッタリです。お申込、お問合せは事務局までお気軽にどうぞ！

事務局からのお知らせとお願い

振込 用紙は毎月同封しています。これは「思い立った時にいつでも振り込みできるように、毎月同封してほしい」というご要望があったからです。決してお振込を強要するものではありません。恐れ入りますが、ご不要な方は処分をお願いいたします。

住所 を変更された方は、事務局までお知らせください。なお今後の資料送付が不要の場合は、お手数ですが事務局までその旨ご連絡ください。

(順不同・敬称略)

浅原望樹 泉谷智美 川崎巳代治 小林洋子 財津悠子 川崎巳代治 里見照子 高橋武三 遠山祥子 中島乃婦子 長棟かおる 中村順子 林由美子 深田俊江 深堀ミチ子 福山知恵子 松井岩美 丸山さより めぐみ保育園 森悠子

<都道府県別 / 計49名 (匿名含む) >

- 【長野県】 1名
- 【静岡県】 1名
- 【三重県】 1名
- 【兵庫県】 2名
- 【島根県】 2名
- 【広島県】 3名
- 【山口県】 2名
- 【愛媛県】 1名
- 【福岡県】 29名
- 【熊本県】 3名
- 【大分県】 2名
- 【鹿児島県】 2名

<2016年8月～10月分の寄付内訳>

| | |
|------------|------------------|
| 活動支援金 | 299,957 円 |
| のぞみ21カンパ | 27,000 円 |
| 雪だるま3号カンパ | 19,000 円 |
| 東日本支援カンパ | 40,000 円 |
| 合 計 | 385,957 円 |

http://www.che9.to/dekin2.html#month

●マンスリーサポーターの皆さん / 計122名 (匿名含む)

相羽美香子 磯道綾子 一瀬和美 伊藤利恵 稲田照子 井上礼子 植田清子 内野千鶴子 有働聡美 江原健一 延壽富美 大麻卓子 大久保伸子 大久保弘子 大崎知恵 太田昌子 大場満 小黒慈子 落石久子 片山富美子 金山涼子 紙森優子 亀川早苗 河上雅夫 川崎君子 川崎清美 川尻愛子 木村雅子 倉掛大輔 古賀輝洋 古賀尚子 後藤宇企子 財津耐代子 財津悠子 斉藤美代子 阪口香奈子 坂口馨子 佐々野也依 佐竹早苗 佐藤一江 佐藤進一 佐藤照子 白浜千恵子 末永浩子 首藤展子 高山知佐子 竹田恵子 武田孝子 田中京子 珍部千鳥 土持秀男・由利子・朱加 網脇牧子 富永隆史 鳥井原桐子 鳥原良子 永尾ゆかり 中島幸代 中島まゆみ 永野沙智子 西首延子 丹羽道代 納富育代 深川哲臣 福井初子 福本勅子 藤田優子 藤本孝子 淵田三輝 古川恵子 松井真知子 松尾智恵子 松木幸美 松永庸子 丸山さより 水本敬子 三野桂子 宮野義治 村西美由紀 村松知子 室屋芳乃 山下澄子 山中陽子 山本亮輔 吉田美抄子 渡邊久美子 渡邊真志子

●皆さまからのメッセージ (一部抜粋)

- いつも少額ですが、お役立て下されば幸いです。●チェルノブイリ支援がいつの間にかフクシマ支援につながっているような、そんな思いがします。●いつもお世話になります。気まぐれなカンパですみません。●息の長い活動、感謝しています。●紹介したお友達の分も一緒にコーヒーを注文しました。香りが高く、とてもおいしいと喜ばれました。●コーヒーと紅茶、ありがとうございました。福島原発事故後、子どもたちの甲状腺異常多発、心配しています。●少しでも何か役立ててもらえたらと思います。●原発がなくなりますように！。

★年末年始の商品発送スケジュールについて★

2016年12月29日(木)～2017年1月3日(火)まで休業します。そのため年末年始の商品発送については、通常と異なるスケジュールにて進めさせていただきます。詳しくは団体ウェブサイトをご覧ください。

編集後記

11月の渡曾先生講演会は、専門家ならではの視点からこれまでの支援活動の成果や課題をまとめていただき、なおかつ一般の方にとっても非常にわかりやすい内容でした。最前線の現場で、現地医療関係者の成長を実際に見てこられた渡曾先生ならではの、実感のこもったお話でした。この紙面から現地の様子や人々の思いを少しでもわかりやすく伝えることができればと考えています。(み)

